



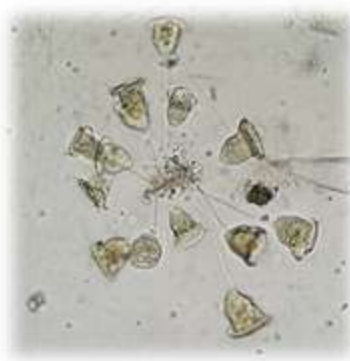
理科だより 3

2020年9月9日(水)発行

文京区立茗台中学校

理科部会

昼休みにツリガネムシの展示を行いました



8月25日から3日間ツリガネムシの展示を行いました。昼休みの短い時間でしたが延べ十数名の方が見に来てくれました。今年度は、コロナ感染症の影響で、顕微鏡の使い方の授業は終わっていますが、残念ながら実際の水中の生物の観察をしていません。魚を飼っている水槽の中にも小さな生物の世界があるのです。今回の理科だよりでは、水中の小さな生物たちにスポットを当ててみましょう。興味のある人は、是非、理科の教員、または、理科支援員の横井に声をかけてください。いろいろな生物をのぞいてみるチャンスをつくりたいと思います。
(左の写真 ツリガネムシ)

水中の小さな生き物たち

多細胞生物		単細胞生物	
	ミジンコ 大きさ 約1mm エビやカニと同じ甲殻類 背中に黒っぽい丸いものは卵、その上にある透明な丸いものが心臓です。		ツリガネムシ 大きさ 約0.3mm 広がったところにたすうの繊毛を持つ。繊毛の動きで水流をつくり、食べ物を細胞口に運んで、体内の食胞で消化する。
	ツボワムシ 大きさ 約0.2mm こんなに小さくても多細胞生物、消化管を持ち、心臓もある。披甲と呼ばれる殻を持つ。		イカダモの仲間 大きさ 約0.02mm 緑藻の仲間が4つ群生したものだ。多くの種類があるのだが、小さくてなかなか分類はできない。
	ヒルガタワムシ 大きさ 約0.3mm ワムシの仲間だが、殻を持たない、多細胞生物で、消化器、心臓をもつ。活発に動き回る。		ハネケイソウの仲間 大きさ 約0.05mm ケイソウの仲間。水中を滑るように移動する。非常に多くの種類がある。緑黄色をしている。

ここにあげたものは、理科準備室にあるミジンコを育てるためのペットボトルの中で見つかったものです。ほかにもいろいろな生物を見つけることもあります。

ツユクサ



1年生の授業の際、単子葉類の植物の例として佐本先生の話の中に登場しましたが、知らない人が多かったので、この理科だよりに書いておきます。

ツユクサは6月から9月に、写真のような1～2cmの花を咲かせる植物です。花は、大きくて青い2枚と下の方にある白い1枚の3枚の花弁、中央に上向きに反り返っているめしべと長さの違う6本のおしべからできています。自生地は日本全土を含む東アジア、花はアサガオと同じように、朝咲いて昼頃にはしぼんでしまいます。そのため、「露の草」という

ことから「露草」と名付けられたとか。英語でも、Dayflower と呼ばれるそうです。ツユクサのきれいな青色は、アントシアニン系の化合物で、ついてもすぐに退色してしまいます。この性質を利用して、古くから染物の下絵を描く絵具として用いられたそうです。大量に集めるのは大変そうですが。

ルコウソウ



アサガオに似ていませんか。もしそう思った人は非常に良い理科的なセンスを持った人です。

この植物は、ルコウソウといいます。熱帯アメリカ原産の植物ですが、日本に帰化して雑草としてみることができる植物です。アサガオの花と似ているのは、同じヒルガオ科の植物だからです。植物の分類は、花や葉の形、花や葉のつき方など、外見的に似たものを集めてきました。もちろん、最近はDNAの解析などによって近い種類とか遠い種類とかも分かってきています。アサガオとちょっと違うのは花の大きさです。ルコウソウは直径2～3cmしかありません。

花の色もアサガオとはずいぶん違いますね。種が取れば、来年、茗台植物園にも置きたいな、と考えているのですが、アサガオと違って種子も小さく、すぐ、飛び散ってしまうので、集められるかどうか。

(文責 横井)